

“Splendid,
Sophisticated
Harmony”

教育企画推進部 副部長 吉井 謙太郎

それは私の決意を新たにする、素敵で貴重な出会いでした。

SSH 事業の一環として、学校の探究活動をはじめとする様々な理数系人材育成プログラムについて、ほかの学校の取り組みから学ぶ「先進校視察」というものがあります。この一環で今年の 2 月、私は宮城県と福島県を訪れました。いずれも東日本大震災の被災地です。宮城県の多賀城高校には災害を科学的に研究する人材を育てる「災害科学科」が設置されており、同校の SSH 事業の中核をなしています。本校でも減災復興学の視点を探究活動に取り入れることを推進し、それが SSH 台湾研修や防災学習の取組に反映されていますが、その方向性を進めていくために大きな学びを得る機会となりました。

視察後、私たちは福島県郡山市に移動して、翌日に福島県立安積高校が主催する探究成果発表会を視察することとなっていました。郡山駅に降り立った私に去来したのは「ここがあの合唱の聖地か」という思いでした。郡山市はコンクールで数多の名演を残した合唱団がひしめく地です。ちょうど私はその 1 週間前、思いがけないきっかけで 5 年ぶりにステージ上で演奏する機会を得たところでした。1820 日ぶりに立つステージはこの上なく楽しく、もう一度音楽というものに向き合う機会を得たいと感じていたところでした。

それは私たち視察教員のために開いてくださった懇親会の席上でした。

「明日も合唱部の練習と同時並行なんですよね。あ、これから来る北海道の人も合唱の人ですよ。」

そこからの 3 時間ほど、私たち 3 人（長田の私、安積の先生、北海道からやってきた立命館慶祥の先生）はそれが SSH の視察であったのをすっかり忘

れたかのように合唱談議に花を咲かせました。北海道から来たその先生は、母校合唱部の顧問をしながら、誰もが知る東京の有名男声合唱団で活動を続ける人物でした。私とも共通の知り合いが何人もいました。私が設立した長田高校の OB 合唱団のことも知っていました。話題はそれぞれの大学時代の所属合唱団のこと、往年のコンクールのこと、SSH 指定校でほかにも合唱が有名な学校のこと、尽きることがありませんでした。

そうして翌日、私たちは探究成果発表会の視察もしながら（もちろん真面目に参加していますが）、安積高校の音楽室を覗いて部員と交流をし、海外研修の報告を聞いてはその国の合唱曲に思いをはせるなどして時間を過ごしました。こうした出会いは、私が合唱だけをやっていても、探究だけを頑張っていても、防災だけに关心があつても持ちえないものでした。

探究というのは重層的な、様々な要素の論理的な積み上げで成り立つものですが、あらゆる人間の営みも（それは論理というより因果というかもしれません）そうであるといえるでしょう。福島で出会った人たちは、とても真摯な思いをもって故郷の復興につなげるための探究に取り組んでいました。「福島にとって震災は現在進行形の災害です」というのは、原発事故による風評被害について探究する高校の先生の言葉でした。『群青』を歌うたびにこの言葉を思い出します。そして同時に、私たちが語り、歌い継ぐことは何なのかについても考えるわけです。私たちが『しあわせ運べるように』を歌うときの思いはどういうものなのだろうか？など。楽曲を比較検討したり、演奏にあたってどのように音楽を深めていくか考えたり調べたりすることも、探究的な営みといえるでしょう。

…と、コーラス大会の審査員を終えて、そんな風なことを考えながら学校に帰ってきてこの原稿を書きました。夏休みも目前です。様々なプログラムが皆さんを待っています。勉強も部活も熱い夏にしてください。そして、それらの経験が皆さんに新しい出会いと深い思索をもたらすことを願っています。

1年「探究入門・理数探究基礎」

1学期共通事業 実施報告

1年生では探究の基礎を学ぶために、一般クラスで「理数探究基礎（週1時間）」を、類型クラスで「探究入門（週2時間）」を開講しています。SSH事業の成果を全校に波及させる、という趣旨から、全体で実施する講演会やワークショップなど、類型の枠組を超えた学年全体で実施する授業も設定しています。1学期に実施した内容の一部を紹介します。

5月19日（月）

「英語パブリック・スピーチと
プレゼンテーションの技法」

神戸市外国語大学 名誉教授・甲南大学 教授
野村 和宏 先生

探究活動だけでなく、より一般的に「語学の学習」や「スピーチ・プレゼンテーションに必要なこと」を、実践を交えて教授いただきました。講義の途中には実際に1分間でスピーチを即興で行い、その難しさと面白さを実感しつつ、今後の学習に向けて決意を新たにしました。



＜生徒の感想から＞

・今日の講義を通して、スピーチは話者が聴衆に話しかけるだけの一方的なものと思っていたが、実は聴者も話者に非言語のもの（態度）を伝えており双方的なものだと初めて知った。また、私は人前で話すのが好きなタイプなので“extemporaneous”が得意だと思っていたが、よく考えると詰まることが多いし、“manuscript”の練習をした時でさえてこずっと

ていたので、これから場数を踏んで、聴者の興味を引けるようなスピーチができるように練習しようと思った。

・人がよくやる動き1つに名前があったのが印象的。特に、手を組んでしゃべるのは、結構すごい人もしている印象があったので、実はあまりよろしくないと知って驚いた。AIが発達している現代で、英語をわざわざ勉強する理由は何だろうとよく悩んでいたけど、スピーチは自分の考え、感情を発表する場なので、AIがとって代わることはないと想い、これからの英語学習のモチベーションにつながった。

7月14日（月）

「未来へつなぐ神戸のレジリエンスと
グローバル貢献

～阪神・淡路大震災30年の軌跡と挑戦～
神戸市企画調整局調整課
竹内 裕基 係長

神戸市から講師をお招きし、「震災30年 神戸市の取り組み」と題した講演を実施しました。

1995年に発生した阪神・淡路大震災から30年。本講演の前半では、震災を経験していない現代の高校生に向けて、当時の被害の実態や、震災の教訓を踏まえたまちづくりの取り組み、さらには災害発生後の迅速な回復を目指す「レジリエントな都市」づくりに関する神戸市の取り組みについて学びました。

後半では、「震災30年の記憶や教訓を未来に継承するために、今私たちに何ができるか」「神戸が“レジリエントな都市”としてさらに進化するために取り組むべきことは何か」「震災を経験した神戸が国内外に対してどのように貢献できるか」といったテーマのもと、グループディスカッションを行いました。



＜生徒の感想から＞

・私は地震のことについて大変興味があり、自分なりに地震についてや、地震が起きた時の問題点についてそれなりに知っているはずだったのに、日本語のわからない外国人が困ると言う問題やデマが蔓延

するという問題など、知っていたはずの問題がディスカッション中に思いつかなかった問題があつたり、幼児への防災訓練や移動式地震体験車両など、全く知らなかつた or 思いつかなかつた話題もあつて、知識をアップグレードできた。最近は南海トラフの予言やらなんやらが世間を騒がせているので、震災を経験した地域に住む者として防災意識だけでもちゃんと持つておこうと思った。

シンガポール研修 事前指導報告

《3》 7/30 (水)	シンガポール	終　日 夜	TEMASEK JUNIOR COLLEGE にて研修 レストランにて夕食
《4》 7/31 (木)	シンガポール	午　前 午　後 夜	ホテルチェックアウト VIVITA SINGAPORE にて交流プログラム シンガポール市街を自由見学 空港へ集合、ジュエルを自由見学
《5》 8/1 (金)	シンガポール 大　阪	0 1 : 2 5 0 8 : 5 0	シンガポール・チャンギ空港出発 関西空港到着、解散

7月28日（月）から8月1日（金）にかけてシンガポール研修を実施します。これに先立ち、3回の事前研修を行いました。第1回では兵庫県立神戸高校のシンガポール人英語教諭であるLo先生にシンガポールの文化や言語についてご講義いただき、シンガポール料理を実際に食べてみるという課題に取り組みました。第2回では現地調査のテーマを決め、第3回では自主研修計画の立案と、交流先のTemasek Junior Collegeの生徒たちとオンラインで交流しました。英語での自己紹介や長田高校の紹介、さらにバディの生徒とのブレイクアウトルームでの交流を通じて、渡航前から研修本番への期待が大きく高まりました。研修中は、生徒たちの様子をブログで公開する予定ですので、ぜひご覧ください。

＜行程表＞

日付	都市名	時間	スケジュール
7/28 (月)	大　阪	0 8 : 0 0	関西空港集合
		1 0 : 5 5	関西空港出発
		1 6 : 3 0 夜	シンガポール・チャンギ空港到着 ナイトサファリ見学（多言語トラムへ乗車） ホテル着、チェックイン
7/29 (火)	シンガポール	午　前	シンガポール国立博物館見学
		午　後	シンガポール大学にて交流プログラム
		夜	レストランにて夕食

＜事前指導の様子＞



＜ブログ QR コード＞



Science Conference in Hyogo 参加報告

7月12日(土)に神戸大学百年記念館で実施された第11回 Science Conference in Hyogo にて、3年生類型の生徒2グループが英語によるポスターセッションに参加しました。6月のポスターセッションでの経験を活かし、自身をもって英語での発表を行い、質疑応答に積極的に参加しました。

＜発表タイトル＞

数理A班：

Thermoelectric Power Generation:

What Made Previous Research Non-reproducible?

金属の塑性変形とゼーベック係数の関係

～先行研究の検討～

数理G班：

How to Make a Strong Building

～the Stiffness Needed to Strengthen

a Hyperboloid Structure～

一葉双曲面構造の剛性分析

～神戸ポートタワーを全国に～



編集後記

1 学期が終わろうとしています。夏季休業中にはシンガポール研修の本番をはじめとして、各種の発表会・研修プログラムなど教育企画推進部・国際理解推進委員会が企画する事業が多数あります。留学に出発する生徒もいます。こうした活動の様子は、2 学期に発行する号で詳しくお伝えできればと思います。

1 学期も本校の様々な活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。充実した夏休みを生徒の皆様が過ごされますよう祈念しております。